

# 能登半島地震・豪雨災害における スフィア基準に基づいた支援と受援：支援偏

○原田 奈穂子<sup>1</sup>, 香田 将英<sup>2</sup>, 小浦 友行<sup>3</sup>, 三浦 太郎<sup>4</sup>, 井垣 敦<sup>5</sup>, 伊藤 竜彦<sup>6</sup>, 大橋 博樹<sup>6</sup>

1. 岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域看護科学分野,  
2. 岡山大学学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス, 3. ごちゃまるクリニック,  
4. 富山市まちなか診療所, 5. 日本プライマリ・ケア連合学会, 6. 多摩ファミリークリニック

## TAKE-HOME MESSAGE

CHSを用いることにより、人道支援における最低基準に則った支援が実践できたかを客観的に判断することができた。ニーズや優先順位に応じて、タイムリーで効果的な支援を実施することは達成できたが、懸念や苦情を安全に伝えることができ、対応を受けられるような支援体制には課題が残った。隊員養成研修に課題を組み入れ、組織的改善を目指す必要性が明らかになった。



### 背景

能登半島地震および豪雨災害において、日本プライマリ・ケア連合学会は1月から支援プロジェクトを開始し、計7か月間に渡る医師派遣支援、経営支援等の支援を展開した。

### 方法

実施した活動をスフィア基準内のCHS：人道支援における必須基準評価ツールに基づき評価した。基準に適合した活動をした場合をYとし、適合割合を評価した。

### 結果

50項目中33項目（約66%）の適合割合であった。特に支援の即応性において高い評価を得た。一方で、当事者中心に苦情や懸念事項を受け入れるアプローチや、調整・相互補完の一貫性に課題が残った。

項目	項目	項目						
多様性、公平性、包摂性の保証	地域の知識・能力の尊重	地域コミュニティの回復力向上	悪影響の防止・軽減	フィードバック方法の確立	活動の調整	定期的なフィードバック	質重視の組織文化	十分な能力・資源の確保
2 関連情報の定期的な共有	2 公平な基準による支援	2 リスク予測と軽減	2 環境への配慮	2 行動規範の理解確認	2 パートナー支援	2 適切なデータ収集	2 安全な活動環境	2 資金の責任ある管理
3 適切なコミュニケーション	3 タイムリーな支援	3 長期的な影響への配慮	3 データ管理の適切性	3 報告方法の理解確認	3 関係性の評価	3 データの活用	3 必要な支援体制	3 倫理的な資源配分
4 意味のある参加	4 技術的基準の活用	4 地域の主体性支援	4 安全性の確保	4 苦情対応の適切性	4 一貫したアプローチの確立	4 学びの共有	4 行動規範の遵守	4 環境負荷の最小化
5 情報発信における倫理性	5 適切な技術的支援	5 一貫したアプローチの確立	5 一貫したアプローチの確立	5 当事者中心のアプローチ	5 一貫したアプローチの確立	5 一貫したアプローチの確立	5 報告者保護	5 リスク管理
6 一貫したアプローチの確立	6 不正行為への対応	6 一貫したアプローチの確立						
3/6	6/6	3/5	3/5	2/6	2/4	4/5	5/7	5/6

## Core Humanitarian Standards 人道支援の質と責任に関する必須基準

- 自らの権利を行使し、自分たちに影響を及ぼす活動や意思決定に参加できる。
- それぞれのニーズや優先順位に応じて、タイムリーで効果的な支援を受けられる。
- 今後起こり得る危機に対する準備ができ、回復力を高められる。
- 人びとや環境に害を及ぼさない支援を受けられる。
- 懸念や苦情を安全に伝えることができ、対応を受けられる。

### WHAT?

スフィアハンドブックの第4章であり、支援のPDCAサイクルを個人と組織の両面で運用ができるようになるツール

### WHY?

- 適切な支援を届ける
- 必要な支援を必要なタイミングで
- 人びとの声を支援の中心に
- 支援者→受益者の一方通行の関係ではなく、受益者が意見を述べ活動に参加する権利を保障
- 支援の質を保証する
- 団体/個人によるばらつきをなくす

### WHO?

- 使う側: 支援に関わるすべての団体/個人
- 受益者: 災害の影響を受けた地域と人びと

### WHEN?

- 事前: 組織の方針づくり、スタッフ研修
- 最中: 支援プログラムの実施
- 事後: 活動の振り返りと改善

### WHERE?

- 支援の現場から組織の会議室まで

### HOW?

- 9つのコミットメントを活動に取り入れる
- 受益者の参加を促進する
- 定期的に自己評価する
- 組織全体で研修や意識向上を図る
- 透明性を保つ

## Core Humanitarian Standard

- 調整され、相互補完された支援を受けられる。
- フィードバックや学びに基づいて継続的に見直され、改善された支援を受けられる。
- 他者を尊重し、十分な能力があり、管理が行き届いた職員やボランティアから支援を受けられる。
- 支援のための資源が倫理的かつ責任を持って管理されていると期待できる。

COI開示: 筆頭演者、共同演者において、開示すべき利益相反 (COI) はありません

謝辞: 令和6年能登半島地震と奥能登豪雨で亡くなられた方への哀悼の意と、影響を受けた全ての方に心からのお見舞いを申し上げます。また、日本プライマリ・ケア連合学会の災害支援を受け入れてくださいました石川県および輪島市の関係者の皆様のご理解とご力添えに、心から感謝申し上げます。



活動報告書



スフィア基準



CHS